

佐々木利廣先生の名誉教授記念号に寄せて

経営学部長 在 間 敬 子

佐々木利廣先生は、2022年3月末をもって京都産業大学を定年でご退職されました。佐々木先生は1980年に専任講師として本学経営学部に入職され、1984年に准教授に昇任され、1991年には教授へと昇進されました。ご着任からの42年間、教育と研究を通じて経営学部と大学院マネジメント研究科の発展に寄与されました。加えて、副学長をはじめ大学組織の様々な役職を歴任され、本学の組織運営においても大いに貢献されました。それらの長年にわたるご功績により、先生はご退職と同時に京都産業大学から名誉教授の称号を授与されました。今般、それを記念して本号を発行する運びとなり、私たち関係者一同、大きな喜びを感じているところでございます。

佐々木先生は1951年に愛媛県にお生まれになりました。先生は1974年に明治大学政治経済学部経済学科をご卒業後、同大学大学院経営学研究科に進学され経営学修士の学位を取得されました。そして、1980年3月に同研究科博士後期課程を単位取得退学され、同年4月には本学の教員となりました。

佐々木先生の主要なご研究領域は経営組織論、組織間関係論です。企業組織だけではなく、企業、NPO、行政など複数のセクターの協働に着目し、そこから生み出されるソーシャルイノベーションを解明されるとともに、成功したビジネスモデルのスケールアウト、さらには社会へのコレクティブインパクトへと研究の視点も発展させてられました。先生のご研究業績は非常に多く、高い評価を受けておられます。直近でも、共編著『日本のコレクティブ・インパクト—協働から次のステップへ』が、2022年の日本ベンチャー学会において第10回「日本ベンチャー学会清成忠男賞」（書籍部門）を受賞されました。科研費による研究課題も1996年度以後ほぼ途切れることなく採択され、ご退職後の2022年度も本学の総合学術研究所で科研費研究員として精力的に研究を続けてられました。

教育活動においても佐々木先生のご業績は幅広く、学生の主体的な学びを引き出すアクティブラーニングでも卓越しておられました。ゼミでは、企業、行政、NPOといった組織と連携して社会の課題解決や価値創造に取り組むフィールドワークを長く実践してられました。佐々木先生が一人で始められた産学連携活動は、経営学部の他ゼミや他大学ゼミを惹きつけ、複数の事業者と複数大学の学生チームがマッチングして取り組む仕組み「産学連携かちぞう zemi ★」として確立されました。また、佐々木ゼミ卒業生の映像プロとコラボして始められたメディア情報を学ぶ動画制作の活動は、広報を題材として学生が領域横断的にマネジメントを学ぶ実践の場となっています。主体性や企画

実行力を育まれた佐々木ゼミの卒業生は1042名にも上り、各方面で活躍されています。先生は卒業後の交流も大切にしておられ、卒業生の皆様も様々な場面でゼミや学部とも関わっていただきました。

2002年4月に開設された大学院マネジメント研究科に佐々木先生は準備段階から関わられ、その発展にも寄与されました。佐々木先生が指導された修士号の取得者は、留学生10名、社会人9名、一般1名で、様々なバックグラウンドを持つ方々が切磋琢磨して学んでこられました。彼らの研究領域は、中国企業、中国のCSR、中国のNGO、台湾の組織、大学組織、宗教法人、ラグビー組織、工務店、組織変革、DMと多岐にわたっています。加えて、博士後期課程で佐々木先生のご指導を受けて博士号の学位を取得された方も4名もおられます。大学院の各課程を修了された24名の方々は、大学や企業など多方面で高度な専門職として高い能力を発揮されています。そうした方々とも先生は継続的な関係性を築いておられます。

佐々木先生のご功績はあまりにも偉大で、どれ一つを取りましても容易に真似できるものではありません。しかし、佐々木先生が研究、教育、実践活動に注いでこられた情熱や、自ら関わる姿勢とチャレンジ精神を、少しでも受け継ぎたいと思います。佐々木先生がおっしゃった忘れられないメッセージがあります。「自分自身が関わり続けることが大切なのです。」

佐々木先生、これまで私たちに多くのことを教えてくださり、ありがとうございました。これからもお元気でお過ごしください。そして、ライフワークとしての社会の価値創造に向けて、益々ご活躍されることを祈念しております。